特集

女性も男性も健康に

～性差について考えてみよう～

さいたま市では、女性も男性も互いの性を十分に理解し、思いやりと責任を持ち、生涯にわたり健康な生活を営むことができるまちづくりを目指しています。そして、健康を維持するために大切な医療面において、近年注目されているのが「性差医療」です。女性と男性では、生理的な機能が異なり、直面する健康上の問題にも違いがあるため、思春期や妊娠・出産期、更年期、高齢期など、人生の各段階に応じた健康保持・増進のための適切な対策が求められています。

今号では、さいたま市民医療センターの女性内科外来、乳腺・内分泌外科を通信員とともに取材し、性差について考えてみました。

通信員さんの取材風景

性差医療とは…

1980年代以降、米国において研究が進められ、近年日本でも取り組みが広がっている「性差医療」。まだ一般的には聞きなれない言葉ですが、男性と女性では発症しやすい病気が異なるうえに、同じ病気にかかったとしても症状が違うことがあることから、性差を考慮した治療法の必要性が問われています。

例としては、同じ狭心症でも男性は心臓の表面の太い血管の流れが悪くなるといった症状がみられる一方で、女性は心筋の小さな血管の流れが悪くなるといったような違いがみられ、同じ医薬品を使用したとしても有効性が異なることがわかっています。また、男性では肝疾患や悪性新生物（がん）が、女性では認知症や関節性疾患等の発症率が高い傾向がみられます。

これまでは、成人男性を基準にした治療が中心的な考えでしたが、男女の本質的な身体の違いを認識した医療を目指すために、新たに女性外来を設置する医療機関も増えています。また、性差医療には男性医療も含まれており、男性更年期外来といった男性専門外来も登場しています。

※参考：内閣府男女共同参画局　総合情報誌「共同参画」（平成20年7月号）、男女共同参画白書（平成16年・17年版）

女性外来 Q&A

平成21年3月にオープンしたさいたま市民医療センターの女性内科外来で、担当の大野真実先生に女性外来、性差医療などについて伺いました。

大野真実先生

Q 女性外来の設置はいつ頃から始まったのでしょうか？

A 女性外来は、日本では十数年前から設置され始めました。それまでは男女ともに同じ治療が行われてきましたが、性差によってかかりやすい病気や治療法が違うという認識が広がり、全国で設置が進められています。

Q これまでの婦人科との違いはどういったところでしょうか？

A 子宮や卵巣など女性特有の臓器やホルモンの流れを診察する婦人科に対して、ある部分だけを診るのではなく、女性の心と体を総合的に診ていこうとするのが女性外来です。

Q 女性外来を設置するところが増えていますが、なぜ女性外来が必要なのですか？

A これまでの治療は成人男性を基本として考えられていて、女性は男性のミニチュアくらいの認識であったかと思います。ですが性差医療の研究が進み、初経や妊娠・出産、更年期やホルモンの流れなど女性ならではの特性に基づいた診療が必要とされています。

Q どのような症状を訴える方が多いですか？

A 内容はさまざまですが、原因不明の体の不調といわれる不定愁訴を訴える方が多くみられるほか、精神的につらい症状や、内服中のお薬に不安感をお持ちの方も多くいらっしゃいます。診察の際に女性内科外来を選んだ理由をお聞きしているのですが、「どの科に行ったらいいのか判断できない」「女性の先生に診てほしい」「ゆっくり話を聞いてほしい」という意見が多いですね。ゆっくりお話しをお聞きするだけでも、症状が改善する方もあります。診療はカウンセリング中心ですが、症状によっては他科や他の病院をご紹介し、連携をとって治療を進めていきます。

Q 診察の流れを教えてください。

A まずは電話で予約をしていただいています。問診票に記入していただいた後にお話を伺いますが、時間は大体30分ぐらいです。大切なのは、リラックスして話をしてもらうこと。そのために、診察室によく見られるような丸椅子ではなく座り心地のよいソファを備えています。ほかにもアロマオイルの香りや間接照明など、診察にいらした方にとって心地よい空間づくりを意識していますね。白衣を着用していないのも「お医者さん」というよりは、カウンセラーとしてお話を聞きたいと考えているからです。

さいたま市民医療センター

さいたま市西区島根299番地1
☎048-626-0011（代表）

※外来は、原則として地域の病院、診療所からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちいただいた患者さんを対象としています（女性内科外来は除く）。

女性内科外来

- 診療日時…毎月第2木曜日・第4土曜日 午前9時～12時
- 診療費用…保険外（5,250円）
- 診療申込…完全予約制